令和７（2025）年度課題別研究会「部落問題学習」の研究協議の柱

１　被差別部落の子どもたちをはじめ，被差別の状況にある子どもたちを取りまく差別の現実を明らかにしよう。

２　全ての子どもたちが差別をなくす意識や態度，生き方を学べるよう，部落問題学習の在り方について交流しよう。

３　賤称語が教科書に記載されている意味やその背景，そして，そこに込められた人々の願いや思いを基に，部落問題学習の在り方について交流しよう。

※　賤称語とは，中学校や高校の社会科（歴史）の教科書に記載されている，被差別身分を表す呼称のことです。この用語を教科書に記載することになった背景やそこに込められた思いについて理解することが大切です。
参照：令和６年度版　なくそう差別　築こう明るい社会 p.10
「教科書の賤称語記載についての思い」

４　部落史に関する教科書記述の変遷を踏まえた上で，部落差別（同和問題）に対する自分自身の認識やその解決に向けた取組を振り返り，互いの実践に学び合おう。

５　人権に関する知的理解の深化と人権感覚の涵養を図るために，それぞれの学校・地域の実情や，子どもたちの発達の段階に応じて，年間指導計画や指導内容の充実をどのように図ったか交流しよう。

６　部落差別（同和問題）をはじめとする様々な人権問題の解決をめざし，地域で行われている学習活動や啓発活動を推進するために，学校と家庭や地域，関係機関・団体等がどのように連携しているか交流しよう。

部落問題学習の在り方や進め方に対しての疑問や実践を出し合い，これからの人権教育を実践するための糧となるよう，共に学び合っていきましょう。